

広袴祭り

広袴町内会
会報第64号

発行日
2024(令和6)年
10月1日

発行責任者
広袴町内会
小堺 幸

町作りの5つの柱

- 1 安心、安全な町
- 2 子どもお年寄りを大事にする町
- 3 きれいで清潔な町
- 4 伝統、文化を大切にしている町
- 5 近所の触れ合いのある町

夏祭り・盆踊り大会

七月二十七日午後五時、男女七人による「ゆら太鼓」の皆さんが打つ太鼓の音が、まだ蒸し暑さの残る広袴広場に響き渡った。連打される力強い打音とテンポよいリズムが、今年の広袴町内会夏祭り・盆踊り大会を告げるファンファーレとなった。

連日、午後三時を過ぎるころから、雷をとまなうにわか雨に見舞われ、当日も心配されたが、なんとか天候は持ちこたえてくれた。午後五時の開始から終了の午後九時まで、町内会の皆さんだけではなく、多くの人びとが広場を訪れ、夏祭りを楽しむという、今年も町内会最大の催しとなった。

日が暮れる前から、小さな三、四歳ぐらいのお子さんや、小学校低学年の子を連れたジイジやバアバの姿が多く見られ、お子さんたちはユカタ姿が目立ち、夏祭りならではの光景である。

会場には、焼き鳥、ジャガバター、生ビール、フランクフルト、玉コンニャク、焼きソバなどの沢山の店が用意され、開店と同時に長蛇の列、その賑わいは八時すぎまで続いた。

このほか会場には、広楽会の皆さんが作った手芸品の出店がでており、多くの女の子を引きつけ、手作りの作品を選んで購入する姿も見られた。子ども会のくじ引き「スーパースポールすくい」も人気で、なんども挑戦する子たちが続出。真剣な表情でボールをすくう様子が微笑ましく、上手いくくと、周囲からも歓声が上がるといふ盛り上がり。

午後六時すぎには、小学生も入っている「鼓だぬき会」が登場。二〇数名のメンバーで大太鼓一、中太鼓二、小太鼓四を使って、迫力ある演奏を披露し、会場から盛大な拍手がとびつづいた。このグループは「ゆら太鼓」と同じように、リーダーを含め、町内会の有志の皆さんが練習を重ね、夏祭りに臨んだという。

陽が落ちて、吊し電球の光に浮かび上がった櫓の舞台には、踊り手の皆さんが登場し、祭りの最大のイベント・盆踊りが始まった。定番の「炭坑節」がスピーカーから流れ、夏祭りは一段と盛り上がりを見せた。

焼きソバやフランクフルトを食べながら、幼い子を連れた家族や久しぶりに広袴の夜を楽しむ人たちが、談笑しながら、踊りを見、これぞ夏祭りという光景が随所にみられた。

夏祭りの準備・運営には多くの町内会の皆さんが参加し、活躍しました。有り難うございました。





夏祭りの舞台裏

夏祭りは成功裏に終わりましたが、準備作業をはじめ、大会の運営に携わった方々は大変な日々をすごしました。その様子の一端を、見聞きした範囲でお伝えすることにします。

大会の準備作業は四月末の総会の直後から始まった。六月一日の委員会で、大会運営の役割分担が決まった。続いて、六月八日に関係者を集めた「合同会議」が開かれ、会場の設営、防犯・警備、屋台の食材と調理用具などの調達、太鼓隊や踊り手さん、資材の運搬・設営を担当の方々に改めて協力を依頼し、作業の確認を行った。



験者との差は大きい。今回の大会を統括する担当副会

大会の物的

な準備は、会場
の設営と出し
物の屋台の設
営の二つがメ
イン。コロナ禍
で夏祭りは三
年中止とな
ったが、大会の
経験者は多く、
準備作業のノ
ウハウは蓄積
されている。だ
が、実際に体験
した者と未經

長、担当部の文化部長と二人の副部長もはじめてのこ
と、「やるっきゃない」との開き直りで、煩雑で多忙な
日々を、大会終了翌日の片付けまで、なんとか乗り切る
ことができた。

会場の設営は、七月二〇日午前九時から、高さ四、五
メートル、幅二〇メートルほどの花張り用掲示板を広
場の西側に作ることに始まった。この設営は大工さ
んを含めた、昔から担当している町内の四、五人の人
ちが中心。有志の皆さんと一緒に炎天下、六本の支柱を
建て、掲示板用ベニア板を取り付けた。材料は広袴会館の
倉庫に保管しており、それを皆で担ぎ出し、有志のクル
マで広場まで運び、組み立てる作業で、汗まみれになり
ながら、午前中いっぱい完成させた。



祭りの前日、

鶴川五丁目町
内会から、朝一
番で借用した
アルミ製の櫓
(ヤグラ)をト
ラックで運び
込み、広場中央
に組み立てた。
これが祭りの
舞台になる。こ
の後、本部用テ
ントを張った。
櫓を飾るには
竹を使う。町内

会三役や広楽会有志の皆さんが町内で調達した竹を細

く割いて舞台の花飾り用に使う。花作りは子ども会が
担当。飾り付けた竹は、当日の朝九時から、有志の皆さ
んが櫓に取り付けた。

祭りの当日九時、出店用の大きなテント五張りと呼
属のテントを倉庫から出して、役員と有志で次々に組
み立てる。中に経験した人が数人いて、「ああだ、こう
だ」といいながら、なんとか皆で建て終わる。炎天下の
作業、文化部の人が飲み物を配って歩く。

櫓が完成すると、大蔵町の「トキワ電工」の出番だ。
櫓から放射状に何本か電線を張り、広告名の入った飾
り灯を取り付けていく。櫓の周りには照明用電球を吊
す。さらに、マイク・スピーカーといった音響装置もト
キワが担当。この電気屋さんには、広袴の夏祭りとは十数



年前からの付き

合い。電力会社
との折衝も仕事
のうちだ。
一方、出店の
屋台では火を使
う。消防署への
許可申請が必要
で、これも忘れ
てはならない。
さらに、不測の
事態に備え、広
場周辺に消火器
を七台借りて設
置した。

次は出店の設営と運営だ。まずは「焼き鳥」。焼き鳥

安否確認訓練

六月九日(日)午前九時、「広袴地区にて大規模地震(最大震度六弱以上)発生」を想定した安否確認訓練が行われました。

各世帯では、玄関先に目印の白い布を掲示、指定された集合場所にて、班長に安否を報告。各班長は「災害安否確認表」を持参し、広袴会館(本部)に報告しました。

九時きっかりに防災サイレンが鳴り、訓練開始。九時一七分には最初の報告が本部に届き、予定された時間よりも早い九時五十分には最後の班の報告があり、全六二二世帯の確認を終えました。

東京においても、首都直下型地震や南海トラフ地震などの発生リスクが非常に高まりつつあります。訓練の講評として、小谷自主防災隊長からは、「前回の八九%から今回九二%と報告率が上がりました」とのまとめが述べられました。改めて町内での地震災害に対する意識の高さがうかがえる結果となりました。

朝八時すぎから準備に入った広袴自主防災隊の方々、ご協力いただいた町内会の皆さん、大変お疲れさまでした。(11組 久保田高穂)

に売り切れたという。

お祭りの定番「焼きそば」は広楽会の担当。多くの方々が参加し、分担作業で、材料の仕入れと用具の調達を済ませ、当日は朝早くからキャベツを刻み、運び込んだ出店では、調理担当が鉄板の上で、汗を流しながら炒め、五七〇食余りを午後七時には完売した。

六〇〇本のフランクフルト・ソーセージも火との闘いで、焼いていた担当者の顔は真っ赤に染まり、まるで焼き上がったフランクフルト。この焼き上がりにケチヤップなどを付けて食べるのが人気で、これも完売した。このほか玉こんにゃくは消防団が担当した。

祭りの準備では踊り手さんたちが何回も会館に集まり、曲に合わせて踊りの練習をくりかえし行っていた。

大会当日、ゴミ処理を担当した環境厚生部の皆さん、会場内外の警護と交通誘導を担当した防犯交通部の皆さんも陰の立て役者。総務や会計は、来賓の受付、接待、司会進行を担当。書記の方は墨筆で二二〇余の花を書き、これを花張り担当が掲示板に貼っていった。

大会を開催するにあたって、関係当局の認可が必要。広場の使用許可、町田保健所や消防署、エコライフ推進会社、町田市緑地課等々への届けは、副会長が奔走。

先にも触れたが、大会運営の下支え的役割を担う文化部は、何度も会合を重ね、様々な要望に応えた。例えば、準備期間中も大会本番でも、作業する方々の弁当や飲み物の調達・配布で、これも大変な作業であった。こ

こでも過去の経験者で有志の方々を支えがあった。大会は、翌日の朝九時からの撤去作業で終了した。なお、一面からの夏祭り関連の写真は、広報部の大石司(8組)が担当しました。(広報部 渋谷寿)

チームは、四人の班長とあらかじめ頼んだ会員四名に

有志も加わって構成。昼過ぎには全員集合し、準備作業に入った。チームのリーダーが府中にある卸商と交渉し、串に刺した焼き鳥用冷凍生肉を三〇〇〇本購入。これを三時間かけて白焼きにする。焼く用具はU字溝と炭を使う。煙がモウモウと立ちこめる。

三時半ごろから本焼をプロパンとガスコンロで始めた。焼き鳥の匂いがあたり一面に広がる。全員汗だくになつて焼く。五時のお祭り開始前からお客さんが並び、三時間ほどですべてが売り切れるという盛況だ。焼き鳥は、夏祭りには欠かせないエース級出店で、リーダーの育成など、歴史があるという。

生ビールは、鶴川団地の酒屋「まさるや」が例年通り協力し、ご主人



自らが、せっせと生ビールをカップに注いで奮闘していた。三五〇杯ほど出たという。冷たい生ビールはやはり夏の王様だ。

焼き鳥の隣では、重ねたセイロでじゃがいもを蒸し、ジャガバター作りが始まっていた。作った三三〇食分はアツという間



調整池周辺の除草

七月二日(日)、今年初めての調整池周辺の草刈りが行われました。この日は梅雨が明け、朝でも少し動く汗が噴き出てくるほどの暑さでした。
 そのような中、数名の有志の方がエンジン付き自動草刈り機で、草刈り作業を始めていました。



大勢の人が首にタオルを巻き、帽子を被り、軍手を付けて鎌などを使い、ゴミ袋を左手に、草刈りを始めます。
 道にそって、フ

エンス周りの雑草を根ごと取り除く人、自動草刈り機で刈った草を集めて袋に詰めていく人、それを運んでいく人、炎天下、皆さんが汗だくになって作業を進めていきます。熱中症が心配される中、環境厚生部の方が水分補給でペットボトルを配ってきます。

一〇時半ごろには除草も進み、周辺はきれいになりました。刈り取った雑草を詰めた袋を集めると、大きな山になり、一〇〇袋ほどにもなりました。

暑い中、参加された皆さま、ご協力有り難うございます。次週に予定されております夏祭りを控え、よい準備ができたと思います。

(1組 渡辺祥聡)

吉川動物病院
 診療時間 / 午前 9:00 ~ 12:00
 午後 3:30 ~ 6:30
 日・祭日 / 休診
 町田市広袴 3-3-11 ☎735-3487

(株)光陽測器製作所
 本社 / 〒195-0056 東京都町田市広袴 2-17-14
 TEL 042(736)0959 FAX 042(736)0453



カナダから広袴へ

日本で家を購入しようと探し、運良く、広袴という素晴らしいコミュニティに出会うことができました。

「ちょっと大げさ」な表現かなと思いましたが、本当の気持ちです。広袴に引越すまで、日本に二〇年間住んでいましたが、それまでは日本人よりも外国人の友達の方が多かったのです。この地にきてから、いろいろな方に会うチャンスがあり、新しい友達ができました。付き合っていた外国人が帰国しても、いい仲間ができました。

「会うチャンス」は月々のイベントにあります。例えば、一月のドンド焼き、七月の夏祭り、九月禮大祭とお神輿、一〇月作品展不会、一二月妙全院や神明社での集まりなどです。そのほか会う機会はいろいろあって、人と会って、お話し、コミュニティになります。

広袴に住む前は東京の阿佐ヶ谷や大泉学園、渋谷の幡ヶ谷や下町の木場にも住みましたが、なんか周りのことは少しもわかりませんでした。山登り、ダイビング、海外旅行もしましたが、近所との付き合いはなかった。やはり勤めていた会社が第一で、近所よりは会社のほうが生活の中心でした。

実は北海道の小樽や落石(おつちし)に住んだこともあります。それぞれコミュニティに入りましたが、四月ほどでした。東京に戻ると、大きな町の生活は違いますが、今は小さな町に戻ったような感じですが、ここは私に合います。

イベントはある面で忙しいことですが、その忙しさ

で人生が面白い。夏休みでカナダに行き、今年の夏祭りに間に合うよう帰ってきましたが、カナダでコロナに罹り、それで夏祭りに行けませんでしたが、本当に残念でした。一六年間広袴に住んでいますが、夏祭りを楽しめなかったのは初めてで、寂しかったです。

時々カナダに行きますが、二〇年前に飛行機でカナダの空港に降りた時「帰ってきた」と思いましたが、いまは成田です。両国のいいところはもちろんありますが、知らないうちに日本に住むのが長くなり、友達も多くできて、いまやHomeになりました。もちろんそれが将来とも一〇〇%とはいえませんが、その気持ちは変わらないと思っています。お話しすることは沢山ありますが、いろいろな方々にお世話になり、お名前を書くときりがあります。やはり書くよりは、いっぱい飲みながら話すほうが面白いと思います。それではイベントや散歩の途中でもお話ししましょう。

(7組 パット・ヒューズ)



広袴・せせらぎ緑道

を感じておりますが、鶴川駅の再開発はとても楽しみにしております。

広袴公園は四季を感じる事ができる素敵な公園で、休みの日には子どもと散歩しています。特に春の桜と秋の紅葉は毎年楽しみにしています。また、広袴公園や鶴川台せせらぎ緑道を散歩して感じることは、町内会のクリーンアップデイやゴミ拾いをしながら散歩されている方のお陰で、ゴミがとて少ないことです。いつも散歩コースが綺麗に保たれ、とても感謝しています。私も自宅の周りだけでも草取りやゴミ拾いを心掛け、綺麗な広袴に少しでも貢献したいと思っています。

また、散歩中にすれ違う皆さまから「こんにちは」などと声をかけていただいたり、ワンちゃんと触れ合う機会をいただいたり。子どもたちは挨拶する喜びや大切さを学び、動物への愛おしさを育むことができます。皆さまの寛大な気持ちに感謝しております。私からも声をかけさせていただきます、少しでも顔を覚えていただければと思っております。

(9組 市村正和)



(写真は市村正和氏提供)

広袴のお寺・妙全院

当寺妙全院の宗派は曹洞宗、山号を不動山と称し、本尊は釈迦如来です。開創について詳細は不明ですが、曹洞宗としての開山は江戸初期、元和から寛永の初年の頃とされています。ご開山様は、現川崎市片平の修廣寺六世、行室玄察大和尚様(寛永十二年二月二十日寂)です。十年後の令和十六年にはご開山様の四百回大遠忌となり、百年に一度の大法要を迎えます。

後れ馳せながら私は、当山二十二世の住職大雲元広(石田元広)と申しまして、昭和三十年にこの地で生まれ、住職歴四十四年程になります。

当寺は江戸後期に火災に遭い本堂を焼失し、天保十四年に再建し、その際、五〇㍉程北側の現在の場所へ移転したようです。昭和四十年半ば迄は茅葺き屋根で、現在より一回り大きく、七間半七間の本堂でした。昭和三十年代半ば、南多摩郡から町田市制に変わった頃の町内の戸数は四十軒程でしたが、村中総出で本堂の屋根葺き替えを行っていたのを記憶しております。

昭和四十年頃より鶴川団地の造成が始まり、土器等も発掘されており、古来より人が住みやすい土地であったかと思われまます。造成により寺の周辺の地形が変化しました。寺の正面の向かい側は三〜四㍉程低く、谷間の狭い田んぼになっていました。また、西南方向(坂の上)に不動堂が有りますが、お堂の前の石段は六十三段続いており、下には水量は多くはないのですが滝がありました。

団地造成で削り取った土を丘陵の谷の部分に埋めた

形です。それ以前は、境内でも夏には蛍が飛んでいました。また、現在では不動堂がポツリと独立している様子ですが、戦後までは寺の境内は東西に続いており、その一角に不動堂も存在しておりました。戦後の国の政策により、そこだけが残った状況です。昔の景色は遠いものになり一抹の寂しさはありますが、諸行無常の世でありますゆえ。



小さな集落の小人数で何百年にも渡り、村と寺を護ってきた先人達と歴代住職の苦労は計り知れません。現在では多くの良きご縁を受けて、町内の皆様とより良い町づくりに歩んで行きたいと思っております。

当寺には中将姫作とされている糸引観音があります。昔、多摩地区では養蚕が盛んな頃があり、鶴川は元より日野、八王子方面まで、篤信者の家を宿所として巡回出開帳が行われ、広く信仰を集めておりました。それも大戦を境に終了しました。その他、歴史上有名な方の縁起や、国宝級のお宝が有る訳ではありませんが、一仏両祖(釈尊と禅)の教えは変わりありません。

現在寺では、坐禅会、御詠歌の会を行っております。檀家さん以外の方が多数です。ぜひご参加下さい。仏教徒としての歩み方から、供養や墓の問題等々ご相談下さい。広袴の寺として、当寺の山門はいつも開いております。合掌 (写真は昭和四五年建て替え前の寺)

(3組 妙全院住職 石田元広)

お知らせ!

- 10月20日 鶴連交流事業 運動会 (野津田公園陸上競技場)
- 10月27日 大規模災害訓練 スタンドパイプ訓練
- 11月9~10日 作品展示会!

編集後記

▼昨年は、夏祭りの準備から本番を、ただ傍らでウロウロしながら見ていました。こんなことで大丈夫かなと疑問に思うこともありましたが、大会は無事終了しました。今年はそれを「夏祭りの舞台裏」で検証してみました。担当者が頑張ったのが第一ですが、やはり長年積み重ねた町内会としての経験の裏付けが大きいと感じました。さらに有志の皆さま方の献身的な支えがありました。一方、盆踊りの輪が小さかったのはちょっと寂しかったとか、将来を考え、もっと魅力的な企画をという声もありました。▼前回から始めた住民の方々の寄稿を今回は三人にお願いしました。次回も三人を予定しております。▼今年の夏は異常な暑さで、この後のリアクションが心配です。特に高齢者の方々は日々もご自愛下さい。(広報部 渋谷 寿)

広袴おりおり

富士ビューポイント

第36回



広袴の広範な眺めが望める尾根道は、周知の通り町の宝である。ついこの間、尾根道をドラマのロケ地として利用するのでご迷惑をお掛けします、とのNHKからの紙面が尾根沿いに住む家に配布されていた。今年も春にもTBSの深夜ドラマのロ

ケ地に利用するとの同様の紙面が投函された程であり、さらに言えば、実は二十年近く前から日本映画大学(旧映画学校)のロケ地として時々利用されてきた。

広々とした眺望の中の富士も良いが、取り分け尾根道を東から西に進む際に樹木のトンネルを抜け出て、真つすくなり坂前方に現れる富士は風情がある。背景が隠れるフレーム効果や、柵が導線になる効果が美しさを生んでいる。筆者は富士ビューポイントと呼び、広袴に居住して以来、写

真①～⑬の通り、定点観測的に撮影し続けてきた。

説明は不要であろう。四季折々の変化はもちろんのこと、⑩～⑫のように一日の間中でも時々刻々彩りが変わる。丹沢山塊も富士も空も。



早朝の尾根路より観る白富士は夕の束の間赤富士青富士 (十六組 篠田泰蔵)



③ 2012, 1, 24 08:03



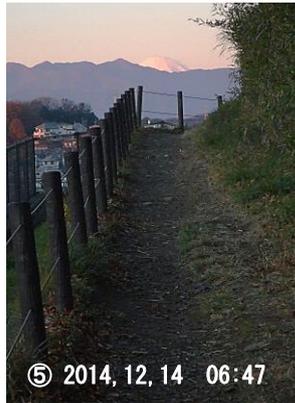
② 2011, 2, 13 07:01



① 2008, 2, 4 06:34



⑥ 2014, 12, 22 16:26



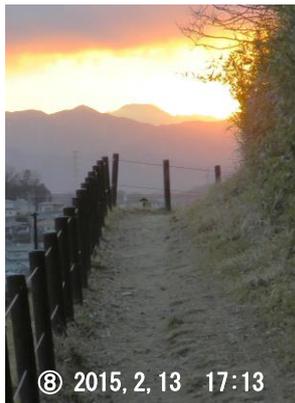
⑤ 2014, 12, 14 06:47



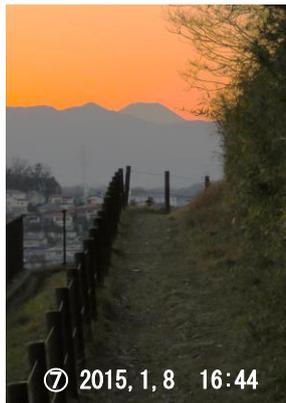
④ 2012, 2, 9 17:10



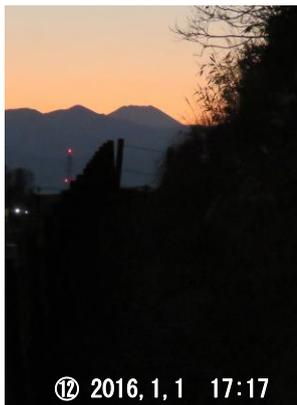
⑨ 2015, 12, 18 07:47



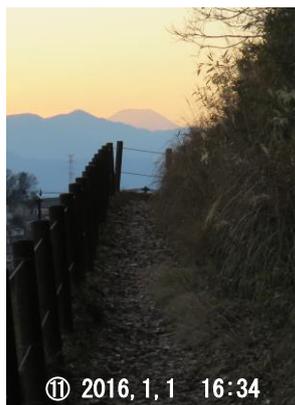
⑧ 2015, 2, 13 17:13



⑦ 2015, 1, 8 16:44



⑫ 2016, 1, 1 17:17



⑪ 2016, 1, 1 16:34



⑩ 2016, 1, 1 08:05



⑬ 2016, 11, 25 06:53

余話

写真⑬は、当時

五十四年振りに十一月の東京に雪が降った翌朝の景色である。以前にも記したことが、雪が積もると広袴の住宅地がまるで遠くの富士や丹沢山塊の麓のように見えて来る。写真の通り、最前景の尾根道部分だけ雪が消えている為に一層その効果が強調されている。